

幼稚園教諭の資質向上を目指すキャリアステージ における講座の在り方の研究

～ 幼児教育の新たなキャリアである幼児教育コーディネータの養成 ～

幼稚園教諭の免許状の保有状況について

(1) 幼稚園教諭等の専門性向上

- 幼稚園教諭の免許状保有状況については、**68%**が二種免許状であり、他学校種に比べて多い。
- 幼稚園教諭免許状（普通免許状）と保育士資格の併有状況については、現職の幼稚園の園長・教頭・教諭のうち**82%**が併有。

※ 文部科学省「平成28年度幼稚園教諭等調査」より

幼稚園における二種免許状の保有状況

各学校における保有免許状別の教員構成 (%)

	幼稚園			小学校			中学校			高等学校						
	国立	公立	私立	国立	公立	私立	国立	公立	私立	国立	公立	私立				
専修	0.5	9.8	0.7	0.4	5.1	17.1	5.0	6.3	8.4	25.9	7.6	17.1	19.2	50.2	20.3	15.9
一種	27.2	64.3	42.6	23.6	78.9	73.6	79.2	61.9	87.3	71.3	88.2	77.2	79.8	49.3	79.2	81.6
二種	68.0	22.5	54.0	71.3	14.0	8.2	14.0	16.9	3.9	2.5	4.0	2.3	0.3	0.4	0.3	0.4
その他	4.3	3.4	2.7	4.7	2.0	1.1	1.8	14.9	0.4	0.3	0.2	3.4	0.7	0.1	0.2	2.1

- ※ 各学校に勤務する養護教諭、栄養教諭を含む。
- ※ 「その他」は臨時免許状、特別免許状等を含む。
- ※ 文部科学省「平成28年度学校教員統計調査」より作成。

教育公務員特例法等の一部を改正する法律の概要①

(1) 幼稚園教諭等の専門性向上

趣旨

大量退職・大量採用の影響により経験の浅い教員が増加する中、教育課程・授業方法の改革への対応を図るため、教員の資質向上に係る新たな体制を構築する。

提言等

- ・教育再生実行会議第七次提言「これからの時代に求められる資質・能力と、それを培う教育、教師の在り方について」（平成27年5月14日）
- ・中央教育審議会答申「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について」（平成27年12月21日）
- ・「「次世代の学校・地域」創生」プラン（平成28年1月25日大臣決定）



- 教師がキャリアステージに応じて修得すべき能力を示す**指標を策定**
- 地方公共団体、大学等からなる協働の仕組みを整備
- 教師の資質・能力の開発・向上を**国として支援するための拠点**の整備などを提言。

1. 教育公務員特例法の一部改正

(1) 校長及び教員の資質の向上に関する指標の全国的整備

- ・文部科学大臣は、以下に述べる教員の資質の向上に関する指標を定めるための**必要な指針を策定**する。
- ・**教員等の任命権者（教育委員会等）**は、教育委員会と関係大学等とで構成する**協議会を組織**し、**指標に関する協議**等を行い、**指針を参酌しつつ、校長及び教員の職責、経験及び適性に応じてその資質の向上を図るための必要な指標を定める**とともに、指標を踏まえた**教員研修計画を定める**ものとする。

(2) 十年経験者研修の見直し

十年経験者研修を**中堅教諭等資質向上研修に改め、実施時期の弾力化**を図るとともに、**中堅教諭等としての職務を遂行する上で必要とされる資質の向上を図るための研修**とする。

教員のキャリアステージにおける資質の向上に関する指標の策定

教員養成に関する近年の政策動向について

(1) 幼稚園教諭等の専門性向上

教員養成に関する課題

必要単位数が法律に規定されており、新たな教育課題が生じても速やかな単位数の変更が困難

学校現場の状況の変化や教育を巡る環境の変化に対応した教職課程になっていない

大学教員の研究的関心に偏った授業が展開される傾向があり、教員として必要な学修が行われていない

これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について
(平成27年12月中央教育審議会答申)

- 教職課程の科目区分の大括り化
- 新たな教育課題等への対応するための履修内容の充実
- 教職課程コアカリキュラムの作成

教育職員免許法の改正 (平成28年11月)

- 「教科に関する科目(大学レベルの学問的・専門的内容)」、
「教職に関する科目(児童生徒への指導法等)」等の科目区分を統合



教育職員免許法施行規則の改正 (平成29年11月)

- 学校現場で必要とされる知識や技能を養成課程で獲得できるよう、
教職課程の内容を充実。
- あわせて、省令上の科目区分も大括り化し、大学の判断で、
教科に関する専門的な内容とその指導法等の複数の事項の
内容を組み合わせた授業を行うことを可能に。



教職課程コアカリキュラムの作成 (平成29年11月)

- 教育職員免許法及び同施行規則に基づき全国すべての大学の
教職課程で共通的に修得すべき資質能力を明確化。
- 大学(養成)、教育委員会等(採用・研修)、文部科学省(行政)等の
関係者が活用することにより全国的な教員の資質能力の水準向上。

免許法改正のイメージ(小学校教諭1種免許状の場合)

(改正前)

教科に関する科目	○単位
教職に関する科目	○単位
教科又は教職に関する科目	○単位



(改正後)

教科及び教職に関する科目 ○単位

教職課程に新たに加える内容の例

- ・特別支援教育の充実
- ・アクティブ・ラーニングの視点に立った授業改善
- ・外国語教育の充実
- ・学校と地域との連携
- ・総合的な学習の時間の指
- ・チーム学校への対応
- ・道徳教育の充実

インストラクショナルデザ
イン(学習目標の分析と
デザイン)の考え方

教職課程コアカリキュラムの例(各教科の指導法の場合)

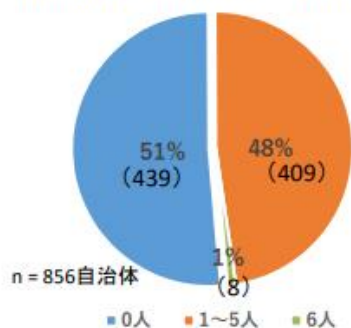
全体目標	教科における教育目標等について理解し、学習指導要領の内容と背景となる学問とを関連させて理解を深めるとともに、授業設計を行う方法を身に付ける。
一般目標	具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。
到達目標	学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業計画と学習指導案を作成できる。 模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。

地方公共団体における幼児教育担当の指導主事、幼児教育アドバイザーの状況

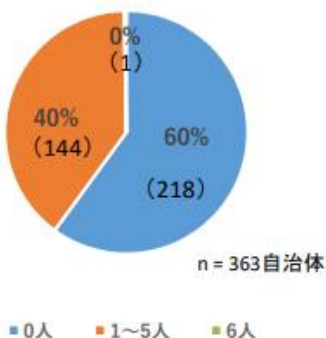
(3) 地方公共団体の推進体制

- 幼児教育担当指導主事を配置している地方公共団体の割合は、全体の約49%。
- うち、幼稚園教諭、保育士、保育教諭（園長を含む。）の経験者を配置している地方公共団体は、約40%。

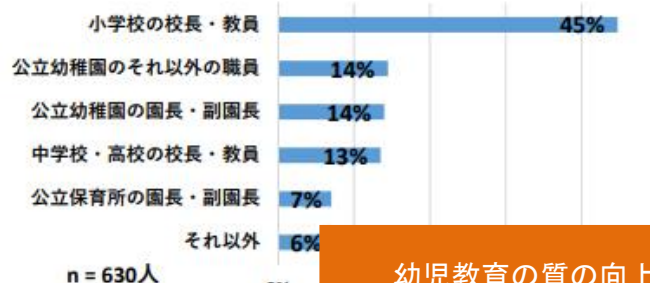
幼児教育担当指導主事の配置数（常勤）



幼児教育担当指導主事を配置する自治体のうち、幼稚園教諭、保育士、保育教諭の経験者の配置数



幼児教育担当指導主事の経歴（上位5つ）



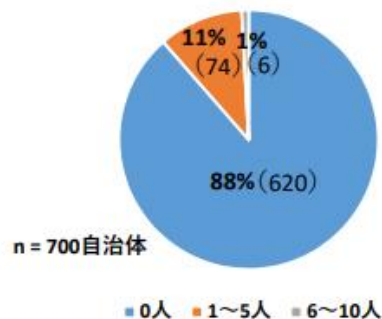
幼児教育の質の向上に
幼児教育アドバイザーの配置

※ 未回答の自治体があるため、幼児教育担当指導主事の配置数はグラフごとに一致しない。

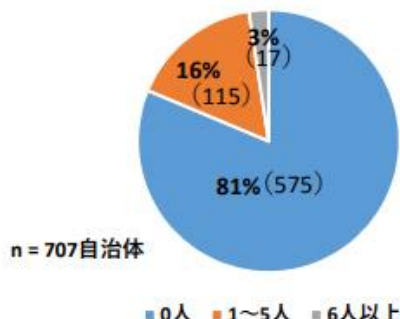
幼児教育アドバイザーを配置している地方公共団体の割合は、常勤を配置：約12%、非常勤を配置：約19%。

※「幼児教育アドバイザー」とは、幼児教育の専門的な知見や豊富な実践経験を有し、域内の幼児教育施設等を巡回、教育内容や指導方法、環境の改善等について指導を行う者のこと。

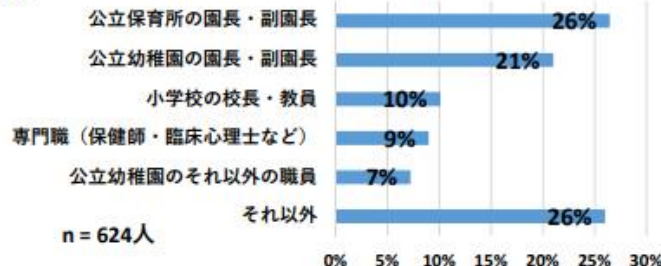
幼児教育アドバイザーの配置数（常勤）



幼児教育アドバイザーの配置数（非常勤）



幼児教育アドバイザーの経歴（上位5つ）



○ 全都道府県・市町村を対象に調査を実施。（平成29年1月時点）
 ○ 有効回答数：1097自治体（回答率：61%）
 ○ 平成28年度「幼児教育の推進体制構築事業」実施に係る調査分析事業成果報告書より作成
 （東京大学大学院教育学研究科付属発達保育実践政策学センター）

幼稚園教諭免許法認定講習等の在り方に関する調査研究

～ 幼児教育の新たなキャリアである幼児教育コーディネータの養成カリキュラムの開発・試行 ～

◆社会的背景

- ・ 今般の子ども・子育て支援関係の人材に対する需要の増加等を受け、私立施設を中心として、幼稚園において幼児教育の質を支える優秀な教員の確保が喫緊の課題となっている。
- ・ 平成19年度の岐阜県の幼稚園教諭免許状授与件数の77.9%は二種免許状であり、一種免許状への上進の必要性が高まっている。
- ・ 教育再生実行会議第十二次提言では、一人一人の多様な幸せと社会全体の幸せ（ウェルビーイング）の実現を目指し、学習者主体の教育に転換することを提言している。
- ・ そのため、教師の質の向上や多様な人材の活用のための方策や「教学マネジメント指針」に基づく密度の高い組織的な大学教育の展開が求められている。

◆調査研究事業の内容

① ハイブリット型授業のデザインと教えないで学べる学修環境の整備

新しい社会のGlobal・Innovationに対応した継続性を必要とした生涯学習の実現や将来の“afterコロナ”時代への対応も含め、対面授業を基本としつつe-learningを組み合わせた講習で実施し、その教育の方法と技術を確認すると共に、従来の講義形式から脱却し、教えないで学べる学習環境の整備と講座の設計を行う。

② キャリアステージに対応した幼稚園教諭に求められる資質能力の構造化

幼稚園教諭として不易とされる資質能力と新たな課題に対応できる力並びに組織的・協働的に諸問題を解決する力を中心にキャリアステージに対応した幼稚園教諭の資質能力を明確化し、講座の学修目標の分析と構造化を図り、資質能力とのカリキュラムマップを作成するとともに各講座のタキソノミーテーブルを作成する。

③ 幼児教育の新たなキャリアである幼児教育コーディネータの養成カリキュラムの開発

教員自身が時代や社会、環境の変化を的確につかみ取り、その時々状況に応じた適切な教育・保育の提供を行うためには、個々の教員が自ら課題を持って、主体的に研修に参加する研修体制の確立が必要である。その際、受講者のニーズに応じて柔軟に研修内容を組み合わせたり、ワークショップ型研修方法を取り入れたりして、受講者が主体的に学ぶ講座の場を考えていく必要がある。そこで、幼稚園教諭の資質向上を目指すキャリアステージにおける講座の在り方を研究し、幼児教育の新たなキャリアである幼児教育コーディネータの養成カリキュラムを開発・試行する。

課題

- 行動変容としての授業の成果の検証
- 学部における初級幼児教育コーディネータの養成
- 大学院による上級幼児教育コーディネータの養成

◆本事業の目的

社会、特に子どもを取り巻く環境が多様化し、幼稚園や認定こども園で幼児教育に携わる教員にもこうした状況に対応する資質能力の向上が求められる。とりわけ、幼児教育の現場で中心的な役割を担う中堅層（ミドルリーダー）の果たすべき役割は大きい。しかし、中堅層の多くは二種免許状所有者であり、その専門性を向上させるためには教育委員会の研修や10年ごとの教員免許状更新講習で学ぶ教育の最新事情とともに、理論と実践を往還する内容が必要といえる。本免許法認定講習では、二種免許状保有者の専門性の向上を図り、上進を推進する。

新たなキャリアである幼児教育コーディネータ養成カリキュラムの開発

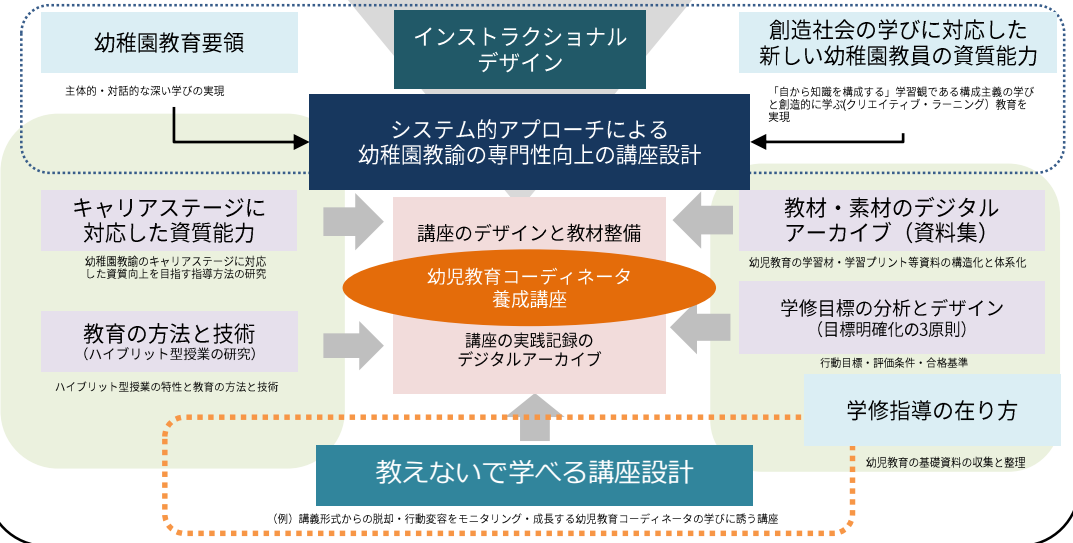
◆具体的な取り組み方法

- ・ ハイブリット型講座のデザインと教えないで学べる学修環境の整備
- ・ キャリアステージに対応した幼稚園教諭に求められる資質能力の構造化
- ・ 幼児教育の新たなキャリアである幼児教育コーディネータの養成カリキュラムの開発

評価検討委員会

専門性が高い幼児教育コーディネータ養成カリキュラムの構造化と内容の精選

※ 新たなキャリアである幼児教育コーディネータについては、岐阜女子大学にて修了証を発行する予定



② キャリアステージに対応した幼稚園教諭に求められる資質能力の構造化

幼児教育コーディネータに必要な資質能力

- 人と人、組織と組織をつなぐコーディネート能力
- 人々の納得を引き出すプレゼンテーション能力
- 人々の力を引き出し、主体的な参画を促すファシリテーション能力

参考：岐阜県「教員のキャリアステージ」における資質の向上に関する指標【幼稚園等】
【資質充実期】並びに【資質貢献期】

■ デジタル変革に対応したskill upからSkill change研修

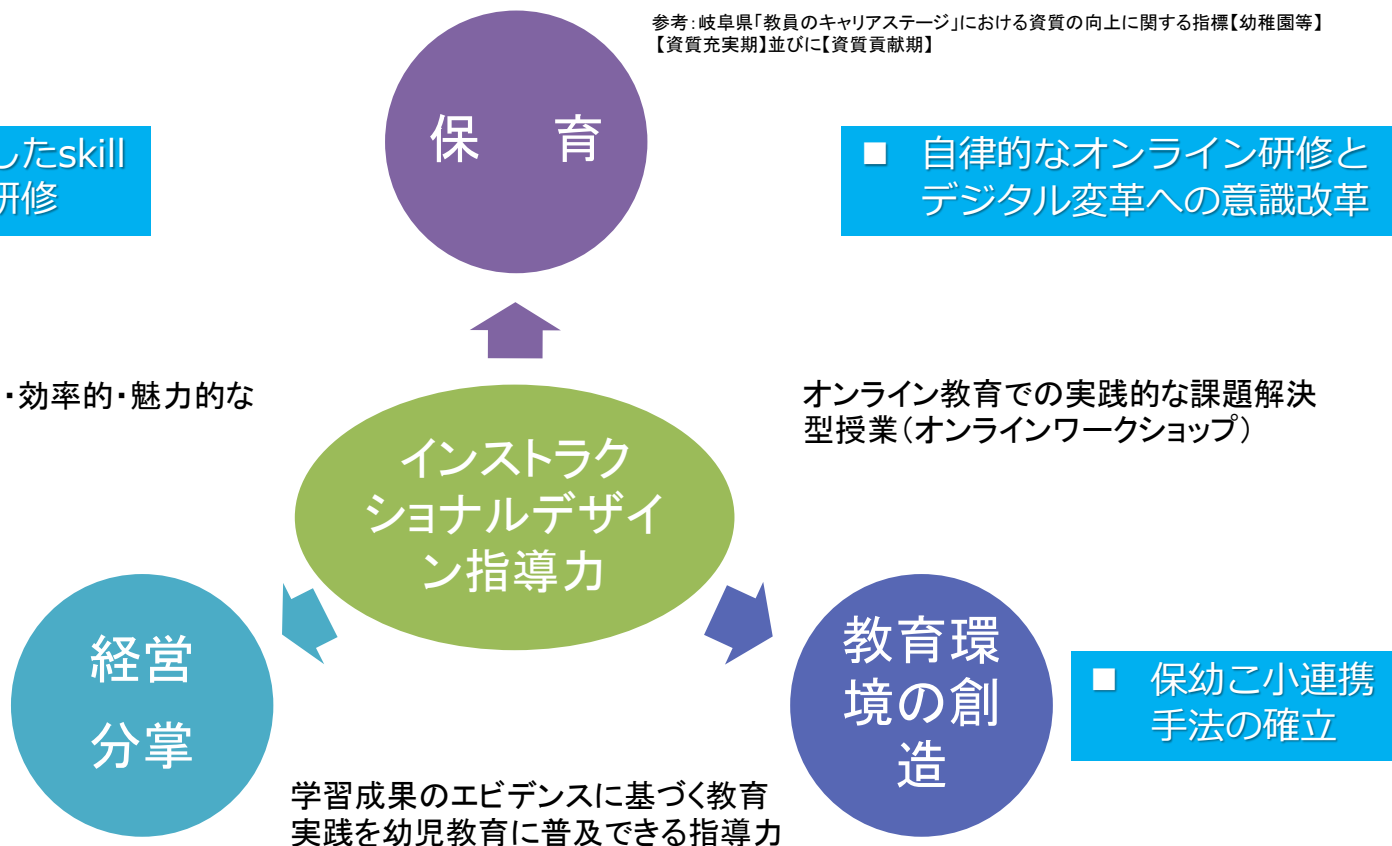
■ 自律的なオンライン研修とデジタル変革への意識改革

オンライン教育における効果的・効率的・魅力的な教育プログラム

オンライン教育での実践的な課題解決型授業(オンラインワークショップ)

■ 知識・技能から資質能力への転換

■ 保幼小連携手法の確立



※ インストラクショナルデザイン指導力：学習成果のエビデンスに基づく効果的な教育実践を幼児教育に普及できる指導力。
※ インストラクショナルデザインとは、「何を(What)できるようにするのか?」を明確にしたうえで、「どうやって(How)できるようにするのか」をルールに基づいて体系的に考えることにより、効果的・効率的・魅力的な教育プログラムを作成するための方法論。

幼児教育コーディネータの資質・能力の構造化

参考：岐阜県「教員のキャリアステージ」における資質の向上に関する指標 改訂版【幼稚園等】における【資質充実期】並びに【資質貢献期】（令和3年10月）

資質・能力カテゴリー		幼児教育コーディネータに必要な資質・能力(案)
保 育	保育構想	(1)自園の課題、幼稚園教育要領の趣旨を踏まえ指導計画を作成し、他の教員に広めていくことができる。 (2)幼稚園教育要領の趣旨を踏まえ自園の課題の解決に努め、日常的な保育の改善に向けて研究体制を整えることができる。 (3)各領域等を総合的・一体的に扱う保育のモデルを示すなど、保育実践のリーダーとして指導方法を積極的に他の教員に広めていくことができる。 (4)自園の課題を踏まえ人格形成の基礎を培う実践について、他の教員に伝えたり、適切に助言を行ったりすることができる。 (5)自園の保育力向上に向けた取組の課題を明らかにし、指導計画等の改善を行うことができる。 (6)他の教員に対して、保育実践の評価を生かした指導改善について、適切に助言を行うことができる。
	保育実践	
評価改善		
教育環境の創造	幼児理解	(1)様々な情報に基づいて幼児一人一人を多面的・多角的に捉え、個性を生かす指導を行うことができる。 (2)継続的に幼児の言動を見届け、価値付ける指導を行ったり、幼児の捉え方について助言を行ったりすることができる。 (3)関係職員や保護者等と協力して、幼児の状況を共有し、組織を生かして指導方法を判断し迅速に対応することができる。 (4)幼児に対する指導を組織的・計画的に実践できるように、体制を整えるとともに問題の未然防止の取組を実践することができる。 (5)幼児の多様な発達の課題を明確にし、それに対応する方策を提案し、園の実践の基点となって実践することができる。 (6)幼児の多様な発達の課題に対する方策を明確にもち、モデルとなる実践を行うとともに、指導内容の改善に向けて助言を行うことができる。
	生活の展開	
	発達の課題	
経 営 分 掌	学級・学年・園経営	(1)自園の分掌全般に関して理解を深め、組織を生かしながら各分掌を推進することができる。 (2)自園の教育目標具現に向けて、園の組織間の連絡・調整を行うとともに若手教員の育成をすることができる。 (3)他の教員等の取組状況を把握し、連絡・調整をしながら対応することができる。 (4)広い視野をもち、関係機関や保護者・地域等と連携し、組織を生かした対応をすることができる。 (5)関係機関や保護者・地域等と連携し、事故等の未然防止や発生時における迅速な対応を行うことができる。 (6)自園を取り巻く環境について、家庭・地域・関係機関との協力体制を整えるとともに、適切に対応することができる。
	連携・協働	
	危機管理	
特別な配慮や支援を必要とする幼児への対応		(1)全校的な支援の充実に向け、職員の連携による指導の体制を整え、組織的・持続的な支援のために主体的に働きかけることができる。 (2)幼児児童生徒への一貫した教育支援を目指し、保護者や地域、関係機関と連携した支援体制の構築を推進することができる。
ICTや情報・教育データの活用		(1)自からのICT活用指導力を高め、これまでの経験を踏まえた活用方法を提案したり、実践したりすることができる。 (2)自園のICTや情報・教育データの活用を俯瞰的に捉え、組織的な課題を明確にし、解決に向けて働きかけることができる。
インストラクショナルデザイン指導力	インストラクショナルデザイン	(1)自分の学びをデザインすることの必要性について説明できる。 (2)インストラクショナルデザインの第1原理の観点から、現実に役立つ自分の学びを設計できる。 (3)e-Learningにより学修がどのように支援されているかについて、研修以外の学習支援方法を含んで、事例を挙げながら説明できる。 (4)研修成果の評価をどのように行うか、研修が目指した学習目標に即して計画を具現化でき、研修の評価・改善を計画することができる。 (5)研修の学習目標に沿ったワークショップのデザインをすることができる。
	研修成果の評価	
	ワークショップ	
	教育リソース	(6)全ての子供たちの可能性を引き出す個別最適な学びと共同的な学びの実現のための教育資料のデジタルアーカイブの活用について事例を挙げて説明できる。

- ※ インストラクショナルデザイン指導力:学習成果のエビデンスに基づく効果的な教育実践を幼児教育に普及できる指導力。
 ※ インストラクショナルデザインとは、「何を(What)できるようにするのか?」を明確にしたうえで、「どうやって(How)できるようにするのか」をルールに基づいて体系的に考えることにより、効果的・効率的・魅力的な教育プログラムを作成するための方法論。

講座の基本的方針(アメリカの教育学者M.S.ノールズ)参照

1. 学習者自ら学習計画を立て、自ら評価できること。
2. 自身のこれまでの経験が学習の基盤となること。
3. 学習の動機が日常生活や普段の仕事にあること。
4. 学ぶことが目的ではなく、問題解決が目的であること。

③ 幼児教育の新たなキャリアである幼児教育コーディネータの養成カリキュラムの開発

目的

「地域・学校園における幼児教育の研修及び専門的指導」のための研修講座の計画立案実践能力、組織化、および地域課題解決への具体的対応力を身につけることにより、地域、学校園における保幼小連携などの幼児教育をコーディネートできる人材の育成や、その能力の向上を図ることを目的とする。

履修証明制度とは、学校教育法第105条及び学校教育法施行規則第164条の規定に基づき、大学が教育や研究に加えてより積極的な社会貢献として、主として社会人向けに体系的な学習プログラムを開設し、その修了者に対して、法に基づく履修証明書を交付するもの。

【履修証明プログラム】

本認定制度は、大学・大学院・短期大学・高等専門学校におけるプログラムの受講を通じた社会人の職業に必要な能力の向上を図る機会の拡大を目的として、大学等における社会人や企業等のニーズに応じた実践的・専門的なプログラムを「職業実践力育成プログラム」(BP)として文部科学大臣が認定するもの。

コース名	幼児教育コーディネータ養成コース (第1期～第3期(100名定員/期))
趣旨・内容	本課程は、「地域・学校園における幼児教育の研修及び専門的指導」のための研修講座の立案実践能力、組織化、及び地域課題解決への具体的対応力を身につけることにより、地域・学校園における幼児教育をコーディネートできる人材の育成や、その能力の向上を図ることを目的とします。
対象者	次の(1)～(3)に該当する方とします。 (1) 幼稚園教諭2種免許状所持者で、基礎資格となる免許状を取得した後、幼稚園(特別支援学校の幼稚部及び幼保連携型認定こども園を含む)における教員として在職年数が、12年以上の方。(((1)に該当する方につきましては、2種免許状を1種免許状に上進可能) (2) 幼稚園教諭1種免許状所持者でスキルアップを目指す方。 (3) 幼稚園教諭としてお勤めで、管理職・マネジメントの職務についている方。
総時間数	7科目 77時間(履修証明プログラムは60時間以上)
コース修了条件	各講習における試験またはレポートによる最終試験を全て合格すること。
出願書類	1. 履修証明プログラム受講申請書 2. 写真 2枚

1. 本プログラム修了者は、本学の単位としても認定する。

2. 履修証明プログラム履修生への「通学証明書」「学割証」「成績証明書」等は発行しない。

幼児教育コーディネータの開設科目

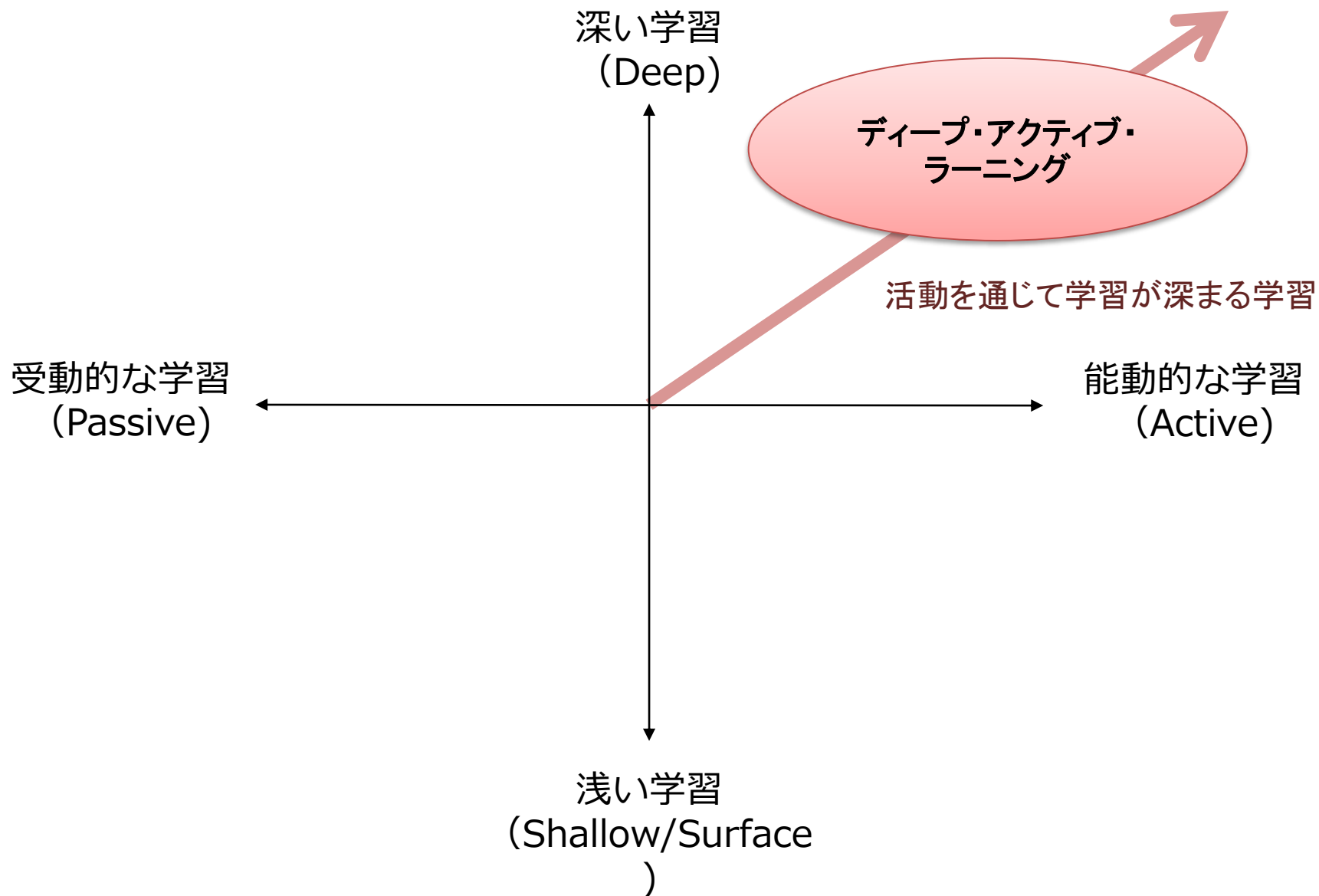
科目区分	科目名	授業形態	時間数	講義内容(案)
領域及び保育内容の指導法に関する科目	遊びと文化Ⅰ	講義	8	幼児期に遊ぶ「折り紙」や身近にある「紙コップ」や「紙皿」などを使い、動くおもちゃを作る。その過程を通して、幼児に身に付けさせる力を考え、それを指導するための方法を考案する。さらには幼児が安定した確かな作品ができるか等の視点を定め、幼児の学びのプロセスを評価し改善・指導できる力の深化を図る。
	遊びと文化Ⅱ	講義	8	
	保育内容(表現)	講義・演習	15	子どもの日々の表現を捉え、共感し育む幼稚園教育要領領域「表現」の考えを理解し、「子どもの表現」の基本的な考えを応用しより専門的に理解を深める。
教育の基礎的理解に関する科目	教師論	講義	15	教師は、学習者とその成長・発達に必要な「生きる力」を身に付けることができるよう、学習内容や学習活動の特質、幼児児童生徒の実態に応じた適切な指導ができなければならない。幼児教育における教師の役割と責務について理解を深め、教育者としての資質を深化させる。
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	教育の方法・技術	講義・演習	15	教育の方法、教育の技術の基礎的理論を学ぶことをとおして、情報機器と教材の保育活動での活用方法を立案し、模擬的に実践する。さらには、特に小学校教育以降において子供たちが身に付ける「論理的思考力」を培うための教育方法について基礎的知識を理解し、指導方法の立案・模擬的実践を行う。
	幼児理解	講義	8	幼児も他者であることを前提に、他者の心を理解する枠組みを理解するとともに、幼児理解についての知識を身に付け、考え方や基礎的態度を理解する。また、幼児理解の方法を具体的に提供し、理解の深化を図る。
	教育相談Ⅰ	講義	8	

幼児教育コーディネータの資質・能力の教科毎の構造化

科目名	講義内容	幼児教育コーディネータに必要な資質・能力(案)
遊びと文化 I 遊びと文化 II	幼児期に遊ぶ「折り紙」や身近にある「紙コップ」や「紙皿」などを使い、動くおもちゃを作る。その過程を通して、幼児に身に付けさせる力を考え、それを指導するための方法を考案する。さらには幼児が安定した確かな作品ができるか等の視点を定め、幼児の学びのプロセスを評価し改善・指導できる力の深化を図る。	<ol style="list-style-type: none"> (1)「自から知識を構成する」学習観である構成主義の学びと創造的に学ぶ(クリエイティブ・ラーニング)教育について事例を挙げて説明できる。 (2)全ての子供たちの可能性を引き出す個別最適な学びと共同的な学びの実現のための教育資料のデジタルアーカイブの活用について事例を挙げて説明できる。 (3)インストラクショナルデザインを生かした教材を設計できる。 (4)様々な教育リソースを活用した研修講座を設計できる。 (5)研修の学習目標に沿ったワークショップのデザインをすることができる。
保育内容(表現)	子どもの日々の表現を捉え、共感し育む幼稚園教育要領領域「表現」の考えを理解し、「子どもの表現」の基本的な考えを応用しより専門的に理解を深める。	<ol style="list-style-type: none"> (1)「自から知識を構成する」学習観である構成主義の学びと創造的に学ぶ(クリエイティブ・ラーニング)教育について事例を挙げて説明できる。 (2)全ての子供たちの可能性を引き出す個別最適な学びと共同的な学びの実現のための教育リソースの活用について事例を挙げて説明できる。 (3)インストラクショナルデザインを生かした教材を設計できる。 (4)様々な教育リソースを活用した研修講座を設計できる。 (5)研修の学習目標に沿ったワークショップのデザインをすることができる。
教師論	教師は、学習者とその成長・発達に必要な「生きる力」を身に付けることができるよう、学習内容や学習活動の特質、幼児児童生徒の実態に応じた適切な指導ができなければならない。幼児教育における教師の役割と責務について理解を深め、教育者としての資質を深化させる。	<ol style="list-style-type: none"> (1)自園の課題、幼稚園教育要領の趣旨を踏まえた指導計画を作成し、他の教員に広めていくことができる。 (2)幼稚園教育要領の趣旨を踏まえ自園の課題の解決に努め、日常的な保育の改善に向けて研究体制を整えることができる。 (3)各領域等を総合的・一体的に扱う保育のモデルを示すなど、保育実践のリーダーとして指導方法を積極的に他の教員に広めていくことができる。 (4)自園の課題を踏まえ人格形成の基礎を培う実践について、他の教員に伝えたり、適切に助言を行ったりすることができる。 (5)自園の保育力向上に向けた取組の課題を明らかにし、指導計画等の改善を行うことができる。 (6)他の教員に対して、保育実践の評価を生かした指導改善について、適切に助言を行うことができる。 (7)自園の分掌全般に関して理解を深め、組織を生かしながら各分掌を推進することができる。 (8)自園の教育目標具現に向けて、園の組織間の連絡・調整を行うとともに若手教員の育成をすることができる。 (9)他の教員等の取組状況を把握し、連絡・調整をしながら対応することができる。 (10)広い視野をもち、関係機関や保護者・地域等と連携し、組織を生かした対応をすることができる。 (11)関係機関や保護者・地域等と連携し、事故等の未然防止や発生時における迅速な対応を行うことができる。 (12)自園を取り巻く環境について、家庭・地域・関係機関との協力体制を整えるとともに、適切に対応することができる。
教育の方法・技術	教育の方法、教育の技術の基礎的理論を学ぶことをとおして、情報機器と教材の保育活動での活用方法を立案し、模倣的に実践する。さらには、特に幼児教育において子供たちが身に付ける「論理的思考力」を培うための教育方法について基礎的知識を理解し、指導方法の立案・模倣的実践を行う。	<ol style="list-style-type: none"> (1)自分の学びをデザインすることの必要性について説明できる。 (2)インストラクショナルデザインの第1原理の観点から、現実に役立つ自分の学びを設計できる。 (3)e-Learningにより学修がどのように支援されているかについて、研修以外の学習支援方法を含んで、事例を挙げながら説明できる。 (4)研修成果の評価をどのように行うか。研修が目指した学習目標に即して計画を具現化でき、研修の評価・改善を計画することができる。 (5)研修の学習目標に沿ったワークショップのデザインをすることができる。 (6)全ての子供たちの可能性を引き出す個別最適な学びと共同的な学びの実現のための教育資料のデジタルアーカイブの活用について事例を挙げて説明できる。 (7)自からのICT活用指導力を高め、これまでの経験を踏まえた活用方法を提案したり、実践したりすることができる。 (8)自園のICTや情報・教育データの活用を俯瞰的に捉え、組織的な課題を明確にし、解決に向けて働きかけることができる。
幼児理解 教育相談 I	幼児も他者であることを前提に、他者の心を理解する枠組みを理解するとともに、幼児理解についての知識を身に付け、考え方や基礎的態度を理解する。また、幼児理解の方法を具体的に提供し、理解の深化を図る。	<ol style="list-style-type: none"> (1)様々な情報に基づいて幼児一人一人を多面的・多角的に捉え、個性を生かす指導を行うことができる。 (2)継続的に幼児の言動を見届け、価値付ける指導を行ったり、幼児の捉え方について助言を行ったりすることができる。 (3)関係職員や保護者等と協力して、幼児の状況を共有し、組織を生かして指導方法を判断し迅速に対応することができる。 (4)幼児に対する指導を組織的・計画的に実践できるように、体制を整えるとともに問題の未然防止の取組を実践することができる。 (5)幼児の多様な発達の課題を明確にし、それに対応する方策を提案し、園の実践の基点となって実践することができる。 (6)幼児の多様な発達の課題に対する方策を明確にもち、モデルとなる実践を行うとともに、指導内容の改善に向けて助言を行うことができる。 (7)研修の学習目標に沿ったワークショップのデザインをすることができる。 (8)全校的な支援の充実に向け、職員の連携による指導の体制を整え、組織的・持続的な支援のために主体的に働きかけることができる。 (9)幼児児童生徒への一貫した教育支援を目指し、保護者や地域、関係機関と連携した支援体制の構築を推進することができる。

幼児教育コーディネータの学習目標の分析

科目名	一般目標	行動目標(行動で目標を示す)	評価条件(評価の条件を示す)	合格基準(合格基準を示す)
遊びと文化 I 遊びと文化 II	幼児期に遊ぶ「折り紙」や身近にある「紙コップ」や「紙皿」などを使い、動く紙おもちゃを作る。その過程を通して、幼児に身に付けさせる力を考え、それを指導するための方法を考案する。さらには幼児が安定した確かな作品ができるか等の視点を定め、幼児の学びのプロセスを評価し改善・指導できる力の深化を図る。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 動く紙おもちゃの指導案を作成することができる。 2. 動く紙おもちゃを動画を使って指導することができる。 3. 動く紙おもちゃの指導法により他の紙おもちゃの指導に応用することができる。 4. 動く紙おもちゃによる子どもの発言を分析して、指導方法と分析結果の評価ができる。 5. 動く紙おもちゃに指導によりどのような学びが発生したかを分析・評価できる。 6. 動く紙おもちゃを新しく創造し、指導できる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 動く紙おもちゃ指導の動画をデジタルアーカイブする。 2. 児童の観察をビデオで記録する機器の準備。 3. ビデオで記録した児童の行動を様々な方法で分析評価で切るための準備。 4. 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 動く紙おもちゃの指導案を作成。 2. 子どもの発言の分析 3. 子どもの学びを分析・評価 4. 新しい教材の開発と指導案の作成 <p>上記の4課題の内3つ以上完成すれば合格</p>
保育内容(表現)	子どもの日々の表現を捉え、共感し育む幼稚園教育要領領域「表現」の考えを理解し、「子どもの表現」の基本的な考えを応用しより専門的に理解を深める。			
教師論	教師は、学習者がその成長・発達に必要な「生きる力」を身に付けることができるよう、学習内容や学習活動の特質、幼児児童生徒の実態に応じた適切な指導ができなければならない。幼児教育における教師の役割と責務について理解を深め、教育者としての資質を深化させる。			
教育の方法・技術	教育の方法、教育の技術の基礎的理論を学ぶことをとおして、情報機器と教材の保育活動での活用方法を立案し、模範的に実践する。さらには、特に幼児教育において子供たちが身に付ける「論理的思考力」を培うための教育方法について基礎的知識を理解し、指導方法の立案・模範的実践を行う。			
幼児理解 教育相談 I	幼児も他者であることを前提に、他者の心を理解する枠組みを理解するとともに、幼児理解についての知識を身に付け、考え方や基礎的態度を理解する。また、幼児理解の方法を具体的に提供し、理解の深化を図る。			



教育目標の分類学 (ブルーム・タクソノミー)

ブルームの教育目標分類学
【認知的領域】
(Bloom, B.S.他)

改訂版ブルーム分類学 (Anderson, L.W.他)

- ① **知識** 情報や概念を想起する
- ② **理解** 伝えられたことがわかり、素材や観念を利用できる
- ③ **応用** 情報や概念を特定の具体的な状況で使う
- ④ **分析** 情報や概念を書く部分に分解し、相互の関係を明らかにする
- ⑤ **総合** 様々な概念を組み合わせて新たなものを形作る
- ⑥ **評価** 素材や方法の価値を目的に照らして判断する

知識次元	認知過程の次元					
	① 記憶	② 理解	③ 応用	④ 分析	⑤ 評価	⑥ 創造
事実に認識						
概念的知識						
遂行的知識						
メタ認知的知識						

幼児教育コーディネータの学習目標の分析とデザイン(例)

タキシノミーテーブル (教育目標の分類体系：タキシノミー)

(〇〇する力がある)	①記憶する	②理解する	③応用する	④分析する	⑤評価する	⑥創造する
	再認、再生	解釈、例示、分類 推論、比較、説明	実行、遂行	比較、組織、結果と原因	チェック、判断	生み出す、計画できる、汎化
	書く、暗唱する 組み合わせる 辞書・ネットで調べる	説明する 他に例える 要約する	道具や方法を選ぶ 実験や実演で試す プレゼンする	他の結果と比較する 基準に照らして考察する 図やグラフを組み合わせる	良否を判断する 優先順位をつける 採点・審査する	解決案を考案する 解決策の実行を管理する 解決システムを設計する
1. インストラクショナルデザイン	インストラクショナルデザインとは何か説明できる。	ADDIEモデルについて事例をあげて説明できる。				ADDIEのプロセスを検討し、折り紙を折れるようになる教材を作成できる。
2. システム的なアプローチによる講座の設計		サイモンのデザインの考えをもとに、授業デザインを状態記述と過程記述から事例をあげて説明できる。				各自の授業を取り上げ、状態記述と過程記述で授業デザインを図示できる。
3. 21世紀に求められる学力と学習環境						
4. 研修の分析と設計						
5. 学習目標のデザイン						
6. e-Learningの方法と技術						
7. ハイブリッド型授業の方法と技術						
8. 魅力ある授業をつくる						
9. 学習意欲を高める						
10. 協働的な学びをデザインする						
11. ICTの活用とその効果						
12. 行動変容のモニタリング技法						
13. 教授・学習の理論と教育実践						
14. 「教えないで学べる」研修企画						
15. ワークショップデザイン技法						

幼児教育コーディネータ養成講座（e-Learning 教材(例)）

プレゼン資料

幼児教育コーディネータ養成講座
[遊びと文化Ⅱ]

第1講「 」

教員名

第1講「 」

【目的】

【学修到達目標】

第1講「 」

幼児教育コーディネータとは・・・

本文

2

3

ワークショップ

【具体的な方法】

- a.
- b.
- c.

4

課題

【具体的な方法】

- a.
- b.
- c.

5

動画資料



動画時間：15から20分/講

幼児教育コーディネータ養成講座（デジタルテキスト）

第 1 講 インストラクショナルデザイン

亀井美穂子（椋山女学園大・准教

授）

【学習到達目標】

- ・学力の定義と 21 世紀型スキルについて説明できる。
- ・求められる学力について説明できる。

1. 現代社会の特徴

ICT は、その能力の指数関数的な向上及び価格低下に伴い、世界全体に急速に浸透し、ICT 産業にとどまらず、他の産業や社会全体、企業のビジネスモデル、個人のライフスタイルなど様々な領域で大きな変化をもたらしている。スマートフォンへのシフト、コモディティ化、新興国市場の拡大は、従来の市場競争のあり方を根本から変えることで、個々の企業の競争力・業績に大きな影響を与え、環境変化に適応した企業が業績を拡大する一方、従来型の市場で大きなマーケットシェアを持っていた企業が業績の不振に苦しんでいる。加えて、スマートフォンや SNS 等の普及は人々のライフスタイルやワークスタイルに大きな変化をもたらし、人々の情報行動 1 を大きく変化させるとともに、新たな就業のスタイルを生み出し

平成 26 年度版情報通信白書



参考文献・参考
Web

教育リソース

学修到達目標

6ページ程度/講

幼児教育コーディネータ養成に関するe-Learningサイト

第12講 授業を分析してみよう

1. 何を学ぶか

平成27年7月16日に文部科学省より提言のあった、「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について（中層まとめ）」において、「教員一人一人が、その職は高度に専門的なものであり、国家社会の活力を作り出す重要な職であるとの誇りを持ちつつ、高い志で自ら研鑽することの重要性が改めて認識されるようになってきた。」とあり、教員の資質能力の向上については、教育基本法第9条においても定義づけられており、教員の資質能力向上は、教員自身の責務でもある。それでは、教員の資質能力とは何か、様々な議論があるであろうが、一つには「授業力」であるといえる。この授業力を磨き上げていくことは、教員の資質能力の向上にもつながる。そこで、授業力を磨き上げることに考えてみる。

2. 学習到達目標

- ① 授業記録の方法について説明できる。
- ② 授業分析の方法について具体的に説明できる。
- ③ マイクロティーチングの方法について説明できる。

3. 研究課題

- ① 授業改善のチェックリストをグループで作成しなさい。

4. 教材開発の基礎としてのインストラクショナルデザインプレゼン構成（第12講）

5. 映像



6. 資料

授業アーカイブ

第13講 教授・学習の理論と教育実践

1. 何を学ぶか

人が「学ぶ」ということについて、古くからいろいろな領域での研究がなされてきた。教授と学習という概念は、一般に教育者の行う教授活動と、学習者の行う学習活動という意味で理解されている。しかしながら、現実の多くの教育においては、「教授と無関係に成り立っている学習」もあれば、「教授が学習を促さない場合」もある。また、「教師がいなくても行われている学習」であっても「教師からいかなる指示も影響も受けずに学習者が学習を行う場合」もあれば、「教師から与えられた指示のもとに、一人で学習する場合」もある。さらには、「教師の指示に反する方法で学習を行うような学習者」もいる。このように、現実の教育の場においては、教授と学習は必ずしもひとつの教育過程を構成しているとはいえない場合がある。ここでは、このような教授・学習の理論の取違について考える。

2. 学習到達目標

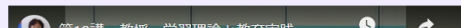
- ① 教授学習に関する基本的な理論を具体的に説明できる。
- ② 行動主義と認知主義の2つの学習論の区別を説明できること。

3. 研究課題

- ① 行動主義的学習論と認知主義的学習論、構成主義的学習論に対応した教材や課題（問題）を作成し、グループで協議をしない。

4. 教材開発の基礎としてのインストラクショナルデザインプレゼン構成（第13講）

5. 映像



2020年11月

2020年10月

2020年9月

2020年8月

2020年7月

2020年6月

2020年3月

2020年2月

2020年1月

2019年12月

2019年11月

2019年10月

2019年9月

2019年8月

2019年7月

2019年5月

2019年4月

2019年3月

2019年2月

2019年1月

2018年12月

2018年11月

2018年10月

2018年9月

2018年8月

2018年7月

2018年6月

2018年5月

2018年4月

2018年2月

2018年1月

幼稚園教諭免許法認定講習等の在り方に関する調査研究に関するWebサイト

HOME > お知らせ > 幼稚園教諭免許法認定講習等の在り方に関する調査研究



📅 2021年09月14日

お知らせ

幼稚園教諭免許法認定講習等の在り方に関する調査研究

文部科学省委託事業
幼稚園教諭の人材確保・キャリアアップ支援事業

幼稚園教諭免許法認定講習等の 在り方に関する調査研究

～幼児教育の新たなキャリアである幼児教育コーディネータの養成カリキュラムの開発・試行～



幼児教育の新たなキャリアである幼児教育コーディネータの養成カリキュラムの開発・試行

検索

最近の投稿

幼稚園教諭免許法認定講習等の在り方に関する調査研究
📅 2021年09月14日

複眼的オーラル・ヒストリーの
実証的研究
📅 2021年09月08日

天龍寺
📅 2021年08月04日

企業とデジタルアーカイブ
📅 2021年08月04日

高校生のためのデジタルアー
カイブ講座
📅 2021年07月26日

美江寺鶴音
📅 2021年07月26日

伊奈波神社
📅 2021年07月26日

ひるがの白山神社
📅 2021年07月15日

温泉植物園
📅 2021年07月15日

明達神社
📅 2021年07月15日

幼稚園教諭免許法認定講習等の在り方に関する調査研究に関するアンケート

/k0gMq9pW7C891msJAX1td76AmHFV4rjb-V8tGo/edit

資・能力に関する調査 □ ★



質問 回答 1 設定



3 セクション中 1 個目のセクション

幼児教育コーディネータのための資質・能力に関する調査

令和3年度の文部科学省事業の幼稚園教諭の人材確保・キャリアアップ支援事業に「幼稚園教諭免許法認定講習等の在り方に関する調査研究」で採択されました。つきましては、調査研究の内容である「幼児教育の新たなキャリアである幼児教育コーディネータの養成カリキュラムの開発・試行」での基礎資料とすることを目的として下記のアンケートを企画いたしましたので是非ご協力をお願いします。 回答時間は、5分程度です。

幼児教育コーディネータの養成講座

幼児教育コーディネータの養成講座は、「地域・学校園における幼児教育の研修及び専門的指導」のための研修講座の計画立案業務能力、組織化、および地域課題解決への具体的対応力を身につけることにより、地域・学校園における幼児教育をコーディネートできる人材の育成や、その能力の向上を図ることを目的とする。

学校種 *

- 保育園
- 幼稚園
- 認定こども園
- 小学校
- 養成機関
- その他...

性別 *

- 男性
- 女性

